



### ●ラムネットJの後半組も会場に

前半組と後半組の全員が揃った朝（12月8日）、柏木さんは長時間飛行の疲れも物ともせず、7時半のバスでNGOミーティングに参加するため出発した。残るメンバーは、道路の向かいにあるパレドールホテル前から8時50分に出発するバスで会場に向かった。

建物に入る手前に、韓国ピョンチャンで開催された会議を彷彿とさせる大きな白いテントで登録を済ませて名札をもらい会場に入った。前半組の皆さんが準備してくださっていたCEPAのブースと、ラムサール・ネットワーク日本の展示ブース、プレスセンターの使い方などを、案内しながら申し送りしてくれた。

### ●FAOのサイドイベント「持続可能な農業」

FAO主催のサイドイベント（#1975）「Sustainable Agriculture (Agriculture, Forestry and Fisheries) : Concrete Transformative Steps Towards Mainstreaming Biodiversity（仮訳：持続可能な農業－生物多様性の主流化に向けた具体的な変革のステップ）」に参加した。FAOが持続可能な農業（Sustainable Agriculture）と言うときには、いわゆる農業だけでなく、漁業と林業も包括するというのを知った。条約事務局長のブラウリオさんも冒頭に挨拶をくださった。メキシコ、サモア、ノルウェー、スイスから具体的な取り組みの事例が発表された。



メキシコは、持続可能な農業にシフトしていくための誘導措置、経済的なインセンティブといった政策の枠組みだけでなく、枠組みを活用している主体（農家、漁師等）が自発的に取り組むことで、政府補助に頼り続けることなく、時間経過とともに自立した市場を形成していけるようになるとし、そのためには地域で

の生産と消費のサイクルを推進することが重要であると発表した。

サモアからは、人口の68%が農業従事者であることもあり、生態系の容量に配慮した農業生物多様性を実現するための、14ある政府省庁を横断的に連携したプログラムが紹介された。

ノルウェーは漁業の管理の事例を発表した。1970年代に漁獲枠を超えた乱獲が問題視されたが、当時の目的はまだ経済成長、雇用の拡大であり、政府による漁業政策も補助金支援で、環境への配慮はその次だった。40年経過して今やっと、環境が政策の中で高い優先順位を得ることができ、持続的な漁獲高の均衡こそが重要で、自然生態系の範囲内で経済成長していくことこそが、課題解決の正しい方法であるということまで至ったことが発表された。

そのあとの討議の中で、生物多様性の主流化とは、言い換えれば、生物多様性を求める消費者意識の強化であり、それを推し進めることで、市場の需要から持続可能性が求められるようになるのだと結んだ。

### ●展示ブース——漢字や折り紙でアピール

明日のサイドイベントに向けて、展示ブースにチラシを配置し、目立つような派手な紙にサイドイベントの告知を書いて、来訪者に呼びかけた。

ブースの場所が会議場の出入り口に接しており、多くの人に見てもらえる好条件の場所である。

漢字の表記が人気だということで、急遽チラシにも漢字を使い、展示物の鳥の名前も大きく目立つように漢字で表記したところ、中国からの一団が反応してくれた。折り紙も折り始めるとすぐにブースに人が立ち寄る。すかさずサイドイベントのチラシを渡して告知を展開した。





### ●ラムネットJ主催のサイドイベントの準備

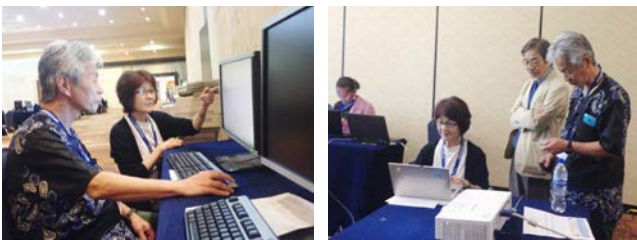
ラムネットの主催するサイドイベントは、12月9日18時15分～19時30分に、展示会場とは別棟のサンライジング棟にある Marie Khan Women's Caucus Meeting Roomで開催される。

予定していたコスタリカの方が参加不可となったり、困難を極めたサイドイベントだったが、やっと登壇者が決まり、チラシを作成して配布した。登壇者との打ち合わせも、皆さん忙しい中で合間を縫って行われた。

会場の場所と機材の確認のために、下見を行なった。こじんまりとした縦に長い会場で、プロジェクターの関係で、どうしても前が大きく開いてしまうので、空間の使い方に工夫が必要だということになった。



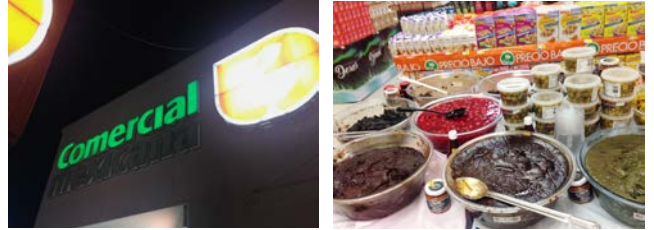
↑サイドイベントで発表するカマルルさん（左）やマティアスさん（右）との打ち合わせ



↑発表の準備を進めるラムネットJのメンバー

### ●スーパーで夕食を購入

会場で出されるケイタリングは、ほぼどこもバサバサのパンのサンドイッチで、すでに皆さん食傷気味。ホテルの近くにあるペリカン印のスーパーで夕食を仕入れて購入した。豆のペーストは、ホテルの朝食にも出るが、この定番の料理らしい。



CBD COP 13 SIDE EVENT [#2010]

**Mainstreaming Biodiversity in Agriculture**  
Inviting various sectors in actions  
to enhance biodiversity related to rice paddies

Ramsar  
Network  
Japan

**Date: 09 December 2016**  
**Time: 18:15-19:30**  
**Venue: Marie Khan Women's Caucus Meeting Room, Sun Rising Hotel 2<sup>nd</sup> Floor**

RiceBED

This side event tries to introduce an approach for mainstreaming biodiversity across sectors in agriculture, especially that related to rice paddies.  
**Ramsar Network Japan (RNJ)** launched "Rice-paddy Biodiversity Enhancement Decade (RiceBED) Project" just after the CBD-COP10 (2010 in JAPAN). The **Rice BED Project** aims for mainstreaming biodiversity in agriculture through encouraging farmers, consumers, private sectors, local administrators, and all of the relevant stakeholders who contribute to, and receive benefits from rice production, distribution and consumption to take conservation actions in rice production landscapes. The campaign is also underway to extending to some selected countries in Asia, Africa and other regions. The side event describes some case studies in Japan, Uganda, and Nepal.

Contents	
Moderator	Mr. Minoru KASHIWAGI, Joint Representative, Ramsar Network Japan
18:15-18:20	<b>Opening Address</b> Ms. Yoshino ANDO, Joint Representative, Ramsar Network Japan
18:20-19:20	<b>Presentations</b>
18:20-18:35	"Mainstreaming Biodiversity in Agriculture through RiceBED Project for Aichi Biodiversity Target" Mr. Masayuki KURECHI, Joint Representative, Ramsar Network Japan
18:35-18:45	"The Functioning of Wetland Ecosystems in Agricultural Development - Implementing Rice Paddy Resolution in Uganda" Mr. Paul Mafabi, Ministry of Water and Environment, Coordinator of Ramsar Centre for Eastern Africa (RAMCEA)
18:45-18:55	Report from Nepal: "Native Rice for Our Survival" Mr. Kamal Rai, National Wetlands Center
18:55-19:05	"Business sector contribution to the enhancement of biodiversity in rice paddies" Mr. Yashinori HASHIBE, Aleph Inc.
19:05-19:20	"Sustainable Agriculture programme and rice paddies" Dr. Matthias Halwart, Sustainable Agriculture Programme, FAO
19:20-19:25	<b>Conclusion</b>
19:25-19:30	↑ ♪ ↑ participatory dance skit "TAMBO-de-TANGO" ↓ ♪ ↓

↑ラムネットJのサイドイベントのチラシ

さて、明日はいよいよ、サイドイベントの本番です！  
(レポート：後藤尚味)